第２８回高校課題研究フォーラム　研究発表資料

「地域連携活動　～ＴＡＫＯボーイズカフェ～」

岐阜県立多治見工業高等学校
セラミック科　加藤 龍輔

１．はじめに

現在、地域連携は地方創生をきっかけに気運が高まり、文部科学省が「社会に開かれた教育課程」等の施策を打ち出してから推進すべき必要性が高まっています。全国的に地域の課題や可能性を共有して連携が進められており、すでに成果が表れ、好循環が形成されているところもあるようです。本校セラミック科では、遡ること１０年前より多治見市の子育て支援イベントへの参加を通して地域との関わりをもち、工業高校で学ぶ生徒として、ものづくりで地域のお役に立てるように取り組んできました。新型コロナウイルス感染症の影響で一昨年度はイベントの開催は中止でしたが、昨年度は屋外へ会場を変更して開催することができました。仲間との協働で皿を作り、対面で人と接して販売し、自分たちの作った作品の評価を直接いただく経験は、大きな財産として生徒の中に残っていくと思います。

２．これまでの取組み

ＮＰＯ法人ママズカフェと一緒に多治見市子育て支援「楽市楽座」に喫茶コーナーのスタッフとして参加してきました。事前に小皿を作り、和菓子屋さんのお菓子を載せて販売します。使った皿は持ち帰っていただきますので、お客さんの選ぶ目は真剣です。形や色合いの悪い皿はなかなか出ていきません。皿は、石膏を使った型起こし成形で作成します。タタラで粘土板を作り、型に押し付けます。縁を切り取り、少し乾いたら縁を整えます。きれいな円形を作るのは難しく、乾燥後や焼成後に歪みが発生してしまいます。これまで、大福用に丸型、みたらし用に長皿など様々な形を作ってきました。下絵付けで模様を描いたり、印花で凹凸を付けて模様に釉薬で濃淡をもたせたり、転写シールでロゴを作ったりもしました。新型コロナウイルス感染症が流行する前までは大きな会場で開催されており、カウンター係・接客係・会計係・呼び込み係に分かれてそれぞれの持ち場で役割を果たしました。お客さんは小さな子供を連れた家族が多く、年々盛況になっていきました。一日中頑張った生徒たちは、疲労の中にも達成感や充実感を感じていたようです。

生徒の集合写真

皿の作成

３．昨年度の取組み

令和３年度は、感染症対策として多治見駅北口にある虎渓用水広場で開催されました。事前にママズカフェの方に来校いただき、当日の流れや役割分担、接客について説明を受けました。特に子育て支援イ

ベントということで「小さな子供を連れた親さんがあなたたちを見て、我が子があなたたちのように育ってくれたらいいと思ってもらえるような明るさでお願いします」と話されました。当日は天候にも恵まれ、会場全体が大勢の来場者で賑わいました。菓子を載せて販売することは控え、食べ物を購入してくださったお客さんに好きな皿をプレゼントしました。活動の様子は新聞にも掲載されました。

事前指導の様子

素焼きした皿

本焼成した皿

屋外での販売の様子

４．成果と課題

無事にイベントを終えた生徒からは達成感と安堵感が感じられました。事前に行ったアンケートによると、イベントの認知は「あまり知らない」と「ほとんど知らない」を合わせると 100%でした。また、地域に貢献したい思いについては「おおいにある」21.7%、「少しある」52.2%、「あまりない」21.7%、「ほとんどない」4.4%でした。事後アンケートによると、参加してみてどうだったかについては「よい経験になった」89.5%、「少しよい経験になった」10.5%で、イベントを通して地域に貢献した実感が「とてもある」63.2%、「少しある」31.6%、「あまりない」5.2%でした。また、これからの地域へ貢献したい思いについては「とても大きくなった」52.6%、「少し大きくなった」36.8%、「変わらない」10.6%という結果でした。生徒に学んだことを尋ねると、「自分が作ったものが人の手に渡ること、地域イベントへ参加する楽しさ、人とのコミュニケーション力や行動する力」などの意見があり、「働くことの大変さ」という意見もありました。また、地域の課題を尋ねると、子育て支援イベントに参加した影響からか、「少子化」という回答が最も多かったです。地域連携活動により新たに知ったこと、経験したこと、感じたことや考えたことは生徒にとってよい刺激になり、今後の学校生活に影響を与えることと思います。令和４年度のＴＡＫＯボーイズカフェは１２月４日（日）にセラミックパークＭＩＮＯで開催しました。新作の皿を準備してセラミック工学科の１年生が地域連携を通してしかできない貴重な経験を積むことができました。ご協力いただきました各方面に感謝いたします。ありがとうございました。